

行政サービス ハボロネ 平成25年度4次隊

平成25年度4次隊シニア海外ボランティア（SV）として、南部アフリカにあるボツワナの首都ハボロネに派遣されています、佐藤美恵子と申します。

昨年2014年4月から2年間の任期中、ボツワナ地方自治省戦略管理室（Strategy Management Office, Ministry of Local Government and Rural Development）に派遣され、主に省内の業務改善のボランティア活動を行っています。私は日本の地方自治体で40年近く働いてきましたが、定年退職を機に、一念発起してシニア海外ボランティアに応募しました。そして現在、ここボツワナでの活動一年目を迎えたところです。

・活動について



←文書管理課の職員（左から、係長、課長補佐、課長）と魚の骨図（Fish Bone Chart）を書いて、職場改善のためのブレインストーミング（Brainstorming）を行いました。

ボツワナでのこの一年の活動を振り返ってみると、まず、4月から最初の一か月間は、JICA/JOCV ボツワナ支所で当該国の国語であるツワナ語の授業を受けました。公用語は英語ですが、現地の人々の日常会話はツワナ語ですので、この年齢で？新たな言語を勉強するのは中々大変でしたが、現在は、日常の挨拶などをツワナ語で行うように心がけています。言葉一つで現地の人との距離が近くなり、とても役立っています。

5月からは、いよいよ地方自治省での活動がスタートしました。最初の2か月位は、開発途上国特有の、何事ものんびりした、約束があるのかないのかわからない、いわゆるアフリカ時間にカルチャーショックを受け、活動計画も立てられず空回りする状況でした。そこで、今は充電する時間と腹を決めて、省内の資料などを読んだり、会議やイベントに出席したりして人々の意見を聞くなど情報の把握に努めました。

7月からは、カウンターパートの勧めもあり、省内の文書管理課（Record Management Unit）の業務改善を行うことになりました。月2回程の間隔で12月まで10回以上、文書管理課の職員と、問題解決のための4ステップ（Plan→Do→Check→Action）手法を使って、問題の洗い出しおよび解決のためのミーティングを重ねました。この様にすらすら書くと、簡単に事が運んだように感じられますが、中々大変でした。特に、次の2点、①約束は守るものという観念が日本ほど強くなく、会議のキャンセルや開始時間の遅れが常態化してしまうこと、②職員の問題認識度が低く、問題というと職場の不平、不満に終始してしまいがちになり、問題を客観的に分析する手法等に慣れていないこと、が大きな障害でした。こうした日本とボツワナのギャップを埋めるには、やはり、双方のコミュニケーションを良くして、根気よく働きかける以外に方法はなく、何とか、解決の糸口までたどり着けたかなという実感です。

1月からは、その解決策に沿って、具体的な改善に着手しているところです。アフリカ時間で歩みは遅いですが、一步一步着実に、ボツワナに日本の改善の良さを浸透させるべく、奮闘しているところです。

・ 現地での生活

ここボツワナは、国土は日本（約 38 万 km²）の 1.5 倍（約 60 万 km²）あるのに対し、人口は約 200 万人で、日本の人口約 1 億 3 千万人に比べ 60 分の 1 にも満たない、広く余裕のある国です。また、ダイヤモンドなどの鉱物資源に恵まれ、1 人当たりの GDP は US\$7,000 を超え、隣国南アフリカの US\$6,600 をも超える比較的裕福な国と言えます。私の任地ハポロネは、国の首都ということもあり比較的人口（約 20 万人強）も多く物も豊かで、基本的な生活は不自由なくできる環境です。

しかしながら、その一方で、ここ何十年で、主に、鉱物資源の恩恵で急速に発展したこともあり、産業の育成や様々な機能の近代化が追い付いておらず、貧富の差が大きく広がっていると聞いています。人々は、皆ゆったりしていて、あまりガツガツしていませんが、その一方で、目立った産業がないため職につけない若者が増え、犯罪率が増加する傾向があるとも聞いています。

現地での私の生活も、この一年で軌道に乗りました。平日は、毎朝、コンビという乗合自動車（日本製バンの中古車が多いです）に乗って、通勤しています。運賃は市内一律、日本円で 50 円位。運転は少し荒っぽいですが、通勤通学の乗客は、皆明るく親切です。職場は、私一人が外国人（東洋人）で、他全員がボツワナ人ですので、大変珍しがられている様子が伺え、皆、サトウ、サトウ、と声をかけてくれます。週末は、JICA の仲間とバンドを組んで歌を練習したり、バスでサファリパークに動物を見に行ったりと、心のリフレッシュに努めています。

今までの日本での生活からは想像もつかない慣習や物事の進め方も多いですが、そういった事にも余裕を持って対応できるようになりました。また、毎日、様々な場面で難しい場面に突き当たりますが、まず、その場面を一旦受け入れ、時には、日本と違った解決策もあることを日々学んでいます。

最近では、ここボツワナも盗難などの犯罪が多発しています。残りの任期も安全管理に十分気を付けて、無事に 2 年間の任期を終えて帰りたいと、心を新たにしているところです。



↑ 昨年 4 月、JICA 研修（フィールドトリップ）で、初めて一人でバスに乗って、郊外に行ってきました。



↑ フィールドトリップで立ち寄った、カーマ・ライノ・サンクチュアリの黒サイです。